

5月18日は、国際博物館会議（ICOM）が定めた「国際博物館の日」です。博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールすることを目的とし、日本では平成14（2002）年から実施されています。今年の世界共通テーマは「歴史と向き合う博物館－博物館が語るものは－」で、公益財団法人日本博物館協会と ICOM 日本委員会が中心となり、全国の博物館・美術館等に記念事業の実施を呼びかけ、多くのイベントが開催される予定です。

日本博物館協会では、この機会に「博物館の社会的役割」について、広くご理解をいただきたく、以下に、協会として「過去と未来を結ぶ文化の架け橋としての博物館」と題する短文を掲載しますので、ご参照いただき、今後とも引き続き博物館にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年 4 月
公益財団法人 日本博物館協会

過去と未来を結ぶ文化の架け橋としての博物館

日本には、日本博物館協会の調べによると 4,000 を超す博物館があり、その種類は総合博物館、歴史博物館、美術館、自然史博物館、科学博物館、郷土資料館、動物園、水族館、植物園などさまざまです。そして博物館は、歴史や美術、科学技術、自然や動植物などに関する資料を収集し、調査研究によって資料の価値を明らかにして、その価値をわかりやすく社会に発信する使命を担っています。

多くの博物館には、過去から残された文化財が保管されています。長い歴史のなかで生み出された文化財は、その時々時代の時代に生きた人々が築いた文化の証であるとともに、これからの未来を考えるための糧としてかけがえのない大切な意味を持っています。博物館は、文化財を通して過去を学び、より良い未来を考えるための文化創生の場であり、過去と未来をつなぐ文化の架け橋ということができます。

博物館に保存されているさまざまな文化財は、宇宙や地球の成り立ちや生命の歩みから人類の営みの足跡まで、まさに人類の思い出の源泉といえる「宝もの」です。博物館は、調査研究を通して、それぞれの資料の歴史的背景や文化的価値を明らかにして、新たな命を吹き込む場所です。こうして文化財は、展示され、また、さまざまな形で示される情報と相まって、人々に感動を与え、新たな文化創造の源泉となり、未来への糧として活かされることとなります。

一方で文化財は、さまざまな材質のもので構成され、永く後世へと受け継ぐためには保存に配慮しなくてはなりません。特に日本の文化財には、保存が難しい資料が多く見られます。例えば建造物は木造が主流で、火災や水に弱いため、過去の建物の多くが失われていくなかで、何百年もの間、木造の文化財を保存維持するのは並大抵の努力ではありません。その他にも、染織品や日本画など、光による退色や、湿度変化による変形などが生じ易いなど、保存には細心の注意が必要な資料が数多く存在します。

未来の糧として役立つ文化財は、展示し活用することで人々に価値を伝えることができ

ますが、展示は劣化の原因となり、保存とは裏表の関係にあります。博物館において、文化財の保存と活用は古くから最も難しい課題です。

博物館の仕事は、活用と保存という課題のなかで、館長をはじめ、さまざまな仕事をする職員に支えられていますが、文化財と向き合い、保存に配慮しながら調査研究を進めて未来に活用するという、博物館の使命を果たすための専門家が学芸員です。

地域に残された文化財の価値を再発見することで、人々は自らの歴史やふるさとへの愛着と誇りを取り戻すことができます。また、価値ある文化財は、地域の外から多くの人々が訪れ、地域が活性化する観光資源としても重要で、博物館が地域の中心施設として機能するために、学芸員は欠かせない人材で、博物館の充実発展にとって極めて重要な専門職員といえます。

現在、日本の博物館をみると、予算や人員の確保が充分になされず、資料収集や保存、調査研究活動に深刻な支障を来している博物館も多くあります。また、博物館に欠かせない学芸員が十分に配置されておらず、小規模な博物館では1名の学芸員が全ての仕事を担う施設や、学芸員が不在の博物館もあるのが実情です。

こうした厳しい状況のなかで、博物館が本来の社会から求められる役割を果たし、さらに観光資源としての活用等、新たな役割を果たすためには、運営予算の確保や学芸員の配置等、基本的な環境整備が欠かせません。

平成 31 (2019) 年には、京都で国際博物館会議 (ICOM) の大会が開催され、世界中から博物館の専門家が日本を訪れます。世界に誇れる日本文化を、博物館から世界に紹介する絶好の機会でもあり、これを機に博物館を充実させていくことは、地域はもとより国内外の利用者に、広く日本の博物館を活用いただく大きな力となります。

公益財団法人日本博物館協会は、昭和 3 (1928) 年の創設以来、博物館の振興を図ることで文化の発展充実に貢献することを目的として活動してきました。

今後、世界から多くの観光客が訪れ、地域の特色ある文化の魅力に触れていただくためには、文化財を保存しつつその価値を伝える博物館の役割は重要です。当協会は、今後とも、過去と未来をつなぐ文化の架け橋としての博物館の役割について、理解を深めていただく努力を続けてまいります。

なお、「国際博物館の日」の行事予定等については、日本博物館協会のホームページでご確認いただけます。

(参考)

当協会では、国際博物館会議 (ICOM) が定めた博物館の倫理規定を基に、日本における「[博物館の原則—博物館関係者の行動規範](#)」を定めています。また、平成 27 (2015) 年には、ユネスコによる「[ミュージアムとコレクションの保存活用に関する勧告](#)」が採択されました。

社会における博物館の果たすべき役割と、その背景にある博物館の基本的機能の在り方と理念が示されていますので、ご参照いただければ幸いです。

以上